【科目名】	比較哲学B		Comparative Philosophy B		
【科目種別】	専門プログラム（日本文化）		【配当年次】	3-4	
【開講時期】	2025年度後期	【開講時限】	水曜2限	【オフィス・アワー】	水曜2限
【科目責任者】	平山 洋				
【担当教員】	平山 洋				
【授業目標】					
●授業目的	この授業は社会生活を送るための実践的な知識を身につけることを目的にします。具体的には日本だけではなく世界の思想を比較することで人間共生の方法を探ることになります。				
●到達目標	人間共生の方法としての比較哲学の応用を習得します。				
【授業概要】	映像資料を駆使することもあわせて人間共生のあり方を考えます。				
【授業方法】	講義形式。				
【授業展開】	<p>第III部 メディア・生命との共生——メディア, 医療, 高齢化と死</p> <p>第1回 メディアと人権 (1) 1 メディア社会を生きる私たち 2 マイノリティの人権とメディア 第2回 メディアと人権 (2) 1 メディア・リテラシー 2 ジェンダーと在日外国人 第3回 病者との共生 (1) 1 病気とは何か 2 病者への差別と排除 3 疫病の歴史 第4回 病者との共生 (2) 1 日本人の病気観 2 病者と共に生きる 3 コレラ大流行 第5回 老いとの共生 (1) 1 老いとは何か 2 老いの文化史 第6回 老いとの共生 (2) 1 斎藤茂吉の老いの諸相 4 老いの価値</p> <p>第IV部 自然との共生——競争から共生の社会へ</p> <p>第7回 人は自然との共生が必要なのか (1) 1 人と自然の共生思想を学ぶ 2 1960年代以降の環境思想—環境倫理の芽生え 第8回 人は自然との共生が必要なのか (2) 1 環境倫理学の開花 2 西洋の技術と東洋の環境思想 第9回 人と自然の共生関係を学ぶ (1) 1 宇宙の循環システムを考える 2 人と自然の共生関係を学ぶ 第10回 人と自然の共生関係を学ぶ (2) 1 古代インドのウパニシャッド哲学 2 ミトコンドリア・イヴ仮説 第11回 環境保護の思想 (1) 実践的環境思想・運動の台頭 第12回 環境保護の思想 (2) 環境倫理——三本の柱 第13回 環境保護の思想 (3) 競争から共生の社会へ</p> <p>第14回 全体のまとめ</p>				
【履修条件】	日本文化コース所属生ばかりでなく誰が履修しても可。				
【評価方法】	第3部終了時にレポート (40%)、第4部終了時に期末試験 (60%) を課し、その合計で評価を行います。				
【テキスト】	『人間共生学への招待 (第3版)』ミネルヴァ書房 ※購入は必須ではありませんが、おおむね本書に基づいて講義します。				
【参考書】					
【備考】	日常役に立つ哲学を志向しています。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	日本思想史B		Japanese Intellectual History B		
【科目種別】	LC1 アカデミック・リテラシー（国際言語文化学科）		【配当年次】	1.2	
【開講時期】	2025年度後期	【開講時限】	水曜5限	【オフィス・アワー】	水曜5限
【科目責任者】	平山 洋				
【担当教員】	平山 洋				
【授業目標】					
●授業目的	高校までの日本史の授業とはまったく異なる仕方では歴史をひもときます。後期は近世近代現代の日本思想史の概略を学びます。				
●到達目標	日本の思想の流れを通史的に理解します。				
【授業概要】	<p>「日本の思想って、難しそうな気がするなあ」と皆さんはお考えになるかもしれません。でも、そうじゃないんです！どのみち考えたのは私たち日本人の祖先なのだし、日本人のアタマが、昔より悪くなった、ということもないでしょうから。</p> <p>本講義は、一年間をフルに使って、日本の思想を一通り概観します。といっても、わずか一年で、おおよそ千五百年はある思想の流れを全部やるというのは、それでもキツイはずですよ。</p> <p>Aの概要にも書きましたが、テキストに準拠しつつ進めています。</p> <p>授業としてはAを取らずにBから受けることも可能ですが、なるべく先にAを履修してください。それから、関連する映像をたくさんお見せします。また、就職試験の対策としても有効です。</p>				
【授業方法】	講義形式。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 泰平の到来 2. 儒学と仏教 3. 町人の思想・農民の思想 4. 国学と神道 5. 蘭学の成立と内憂外患 6. 幕末の群像 7. 概説 近現代の思想 8. 「文明」への旅立ち 9. 臣民と国民 10. 大正デモクラシーの思想 11. 都市と大衆の思想 12. 民族という幻想 13. 戦後民主主義 14. 国民と市民の相克 15. まとめ 				
【履修条件】	誰でも履修可。				
【評価方法】	前期・後期とも中間小論文（40％）と、期末試験（60％）を実施します。				
【テキスト】	「概説日本思想史（増補版）」（ミネルヴァ書房）				
【参考書】	<p>苅部直・片岡龍編「日本思想史ハンドブック」（新書館）</p> <p>頼住光子著「日本の仏教思想」（北樹出版）</p> <p>清水正之著「日本思想全史」（ちくま書房）</p> <p>吉村均「空海に学ぶ仏教入門」（ちくま新書）</p> <p>末木文美士「日本思想史」（岩波文庫）</p>				
【備考】	（キーワード） 日本、思想、仏教、神道、武士道、荻生徂徠、福沢諭吉、丸山真男、公務員試験				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可 履修可（条件なし・試験等免除）	【科目等履修生】	科目等履修生履修可 履修可（単位認定は正規学生と同条件になります）	【交換留学生】	可